

本書は、京都市山科区の歴史と現在の状況をめぐる通史である。執筆者は山科に立地する京都橘大学文学部歴史学科、歴史遺産学科、現代ビジネス学部経営学科の教員（もと教員を含む）である。京都橘大学では今から三〇年近く前、まだ文学部単科の京都橘女子大学であった時代に、山科の通史の本を執筆刊行した（後藤靖・田端泰子編『洛東探訪 山科の歴史と文化』淡交社、一九九二年）。

しかし、山科の歴史をめぐってその後の研究によってわかってきたことも多く、また、『洛東探訪』では近代・現代の部分が手薄であったこともあって、私たち京都橘大学の教員も新しい山科の通史を執筆するの必要を感じていた。一方で、大学自体も共学化して、学部の数が増えるとともに、山科区役所・山科経済同友会をはじめとする地域諸団体・地域住民の方々との地域連携も、それぞれの学部の特色を生かした形で、当時とは比較できないほど飛躍的に進み、このような中で、地域連携の一環として山科の通史を刊行することの今日的意味も感じていた。このような折、山科経済同友会から本書執筆の話があり、その必要を感じていた私たちも喜んで執筆を引き受けた次第である。本書は山科の地域住民の方々に地域の歴史と山科区の現況を知っていただきたいと思いついたものであり、山科の歴史をめぐる最新の研究成果が盛り込まれているものと自負している。一方で、通史として見た場合、多少専門的に過ぎる部分があることも自覚しているが、しかしこれは、本書のオリジナルな部分を含む山科をめぐる研究の最前線を反映した結果であり、記述の正確性を重視したことによるものなので、多少難解な部分があることについては読者の皆様方にはご寛恕いただければ幸いである。

このような機会を与えて下さった山科経済同友会に感謝申し上げますとともに、編集・出版の実務に当たって下さった山科区役所地域力推進室の皆さんにも、心からお礼申し上げます次第である。本書は、京都橘大学の教員（教員間の連絡や執筆者会議の設定などには、京都橘大学学術振興課の職員に協力いただいた）と山科区役所、山科経済同友会の地域連携、良きパートナーシップによって成り立ったものであることを、今後とも関係の発展を願いつつ、最後に明記しておきたい。

二〇二〇年一月

田端泰子
細川涼一